

(様式2-2)

## 令和2年度いじめ・不登校・暴力行為等の未然防止事業(心の交流事業) 成果報告書

1 指定校・指定校群 ( まんのう町立仲南小学校 )

### 2 実施の内容

(1) 全校生を縦割り班に分けた交流活動「なかよしタイム」の実施

○1学期2回(6/15グループ内で自己紹介, 7/9 6年企画)

○2学期3回(9/24 4年企画, 11/12 6年企画, 11/26 低学年企画ペア学年で)

- ・ 活動内容は、学級活動の時間等を使い児童の話し合いで決めさせた。その際に対象学年のことを考えた活動や気をつけることも同時に考えさせた。事後には振り返りの場を設け、企画・運営に携わらなかった学年は、感謝の気持ちが伝わるように発表をした。教師からも企画をした児童に肯定的な言葉や労いの言葉を掛けるようにした。

(2) 思いやりの心と自己の成長を自覚することも園との交流

○1年生との交流(7/7グループ対抗リレーや風船運び, 12/8昔の遊び)

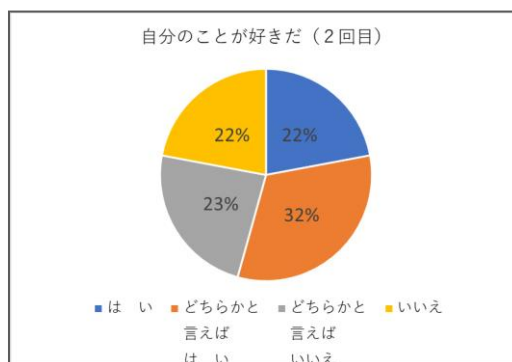
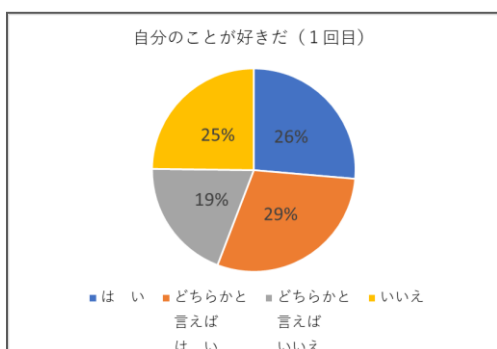
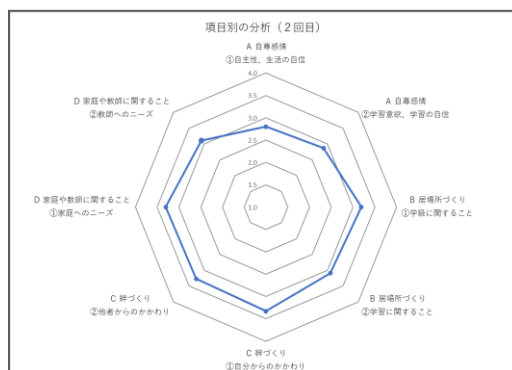
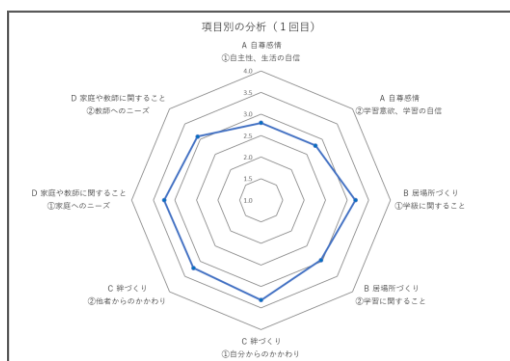
- ・ 年長児に分かるようにという目標で遊び方を説明する時にはどのように言ったらよいかを考えさせた。また、活動中や活動後の振り返りの時に優しく接することができた児童を賞賛した。

○5年生との交流(12/17こども園へ行って年長児と遊ぶ)

- ・ こども園の年長児の思いを大切に活動していた児童を賞賛する。

### 3 成果

(1) アンケート結果の変遷



6月にしたアンケートと11月下旬にしたアンケートの結果に大きな変化はないが、A項目（自尊感情）の②「学習意欲，学習における自信」とB項目（居場所づくり）の②「学習に関すること」は僅かであるが、肯定的な意見が増えた。しかし、A項目①の「私には、よいところがあると思う」と「私は、自分のことが好きだ」の質問は肯定的な意見は僅かに減っている状態で、憂慮しなければならない問題である。

特に気になる結果は、D（家庭や教師に関すること）の②「教師へのニーズ」が平均点は6月も11月も同じであるが、2割の児童が「先生は褒めてくれない」と思っていることである。どの児童にもよさがあり、その人らしさを積極的に認めていく必要がある。

## (2) 自発的・自治的な交流活動における子どもの様子

### 1学期のなかよしタイム（6年企画）の様子



<事前の話し合い>学級全でどのようなことに気をつければよいかを考えた後、グループごとに活動する内容や役割を話し合った。  
<準備>グループごとにお知らせボードに「活動内容」「活動場所」「持ち物」を書き、児童玄関に掲示した。それ以外にも、あらかじめ活動のルールを書いているグループも見られた。この書き方については、児童に任せている。

<活動中>障害物をクリアしてから、相手チームの人とじゃんけんをするゲームを行っている。活動中にどこをどのように回るか困っている下学年の子にコースを教えたり、平均台を怖がる1年生の手をとって補助をしたりしている6年生の姿が見られた。

<活動後>活動後、グループのメンバー全員が集合し、活動内容や活動中のことについて下学年に感想を言ってもらった。下学年は楽しかった所や感謝の言葉を伝えた。  
6年生は学級に戻り、学級活動の時間等で自分たちの活動について振り返りの場を持った。

## (3) 総括

本校の児童は毎年行ってきた全国学力・学習状況調査や県学習状況調査のアンケート結果から「自尊感情」や「自己有用感」が平均よりも低いことがここ数年続き、課題となっている。少しでも児童の「自尊感情」や「自己有用感」を高めたいと思い、異学年交流ではこれまで以上に教師の肯定的な声掛けを大切にしようとして取り組んでいるが、6月と11月のアンケート結果ではその変容はほとんど見られなかった。しかし、交流活動を校内に留めず、こども園との交流を積極的に行ったことで、日ごろ気づかない児童のよさを知ることもできた。この事業を通して、今後児童の自尊感情や自己有用感を高めるために本校で行っていききたいことは以下のことである。

- ・異学年交流等の事後の振り返りの場を特に大切にする。
- ・教師は、児童の活動中のよさをその都度または、活動後に伝える。
- ・教師は、日頃から児童のよいところを見つけようとし、賞賛の場を設ける。